

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	35人	国語B	35人
② 算数A	35人	算数B	35人
③ 理科	35人		

5 留意事項

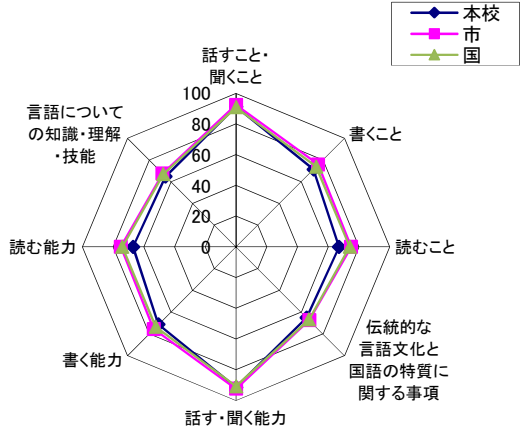
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立平石北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

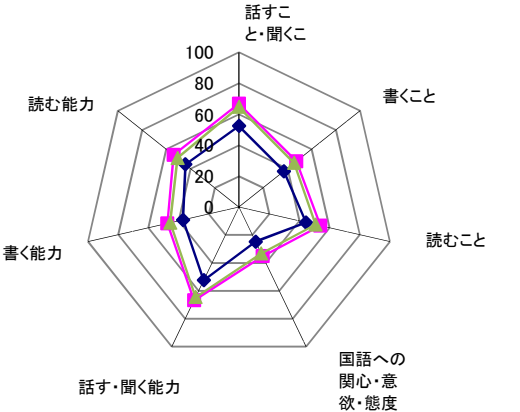
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	91.4	92.4	90.8
	書くこと	71.4	75.7	73.8
	読むこと	67.1	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.0	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	91.4	92.4	90.8
	書く能力	71.4	75.7	73.8
	読む能力	67.1	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	65.0	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	52.4	66.8	64.6
	書くこと	37.1	47.4	45.6
	読むこと	44.3	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	24.8	35.2	33.2
	話す・聞く能力	52.4	66.8	64.6
	書く能力	37.1	47.4	45.6
	読む能力	44.3	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

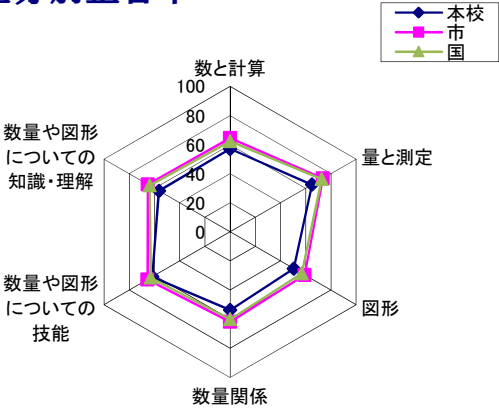
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Aは市平均をやや下回ったものの、国の平均は上回っている。 ○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことに関する問題については、国の平均を0.6ポイント上回っている。 ●国語Bは、国や市の平均を下回っている。 ●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題について課題が見られた。	・ペア学習やグループ活動での話し合いの際、相手や目的に応じて自分が伝えたいこと、相手の意図を捉えながら自分の意見を比べる活動の機会を今後も取り入れていく。
書くこと	●国語A、Bとも国や市の平均を下回っている。 ●目的や意図に応じて、文章全体の構成の成果を考える問題について課題が見られた。	・授業後の振り返りやまとめなど、短作文を書く機会を設け、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書く活動を継続していく。 ・読書をして感想を書く機会を取り入れながら、文章全体の構成を考えて書けるように指導をする。
読むこと	●国語A、Bとも国や市の平均を下回っている。 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことについての問題では、国の平均を4.8ポイント上回っている。 ●目的に応じて複数の文章を選んだり、その文章から何が読み取れるかを選んだりする問題について課題が見られた。	・朝の読書や読み聞かせの機会を通して、読書活動の充実を図る。 ・文章読み取りの学習を行う際に、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されていることに注目させ、想像豊に読ませることを意識して指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国や市の平均を下回っている。 ●文の中における主語と述語などの関係に注意して、文を正しく書くことに問題について課題が見られた。 ●学年配当漢字を書くことに個人差があり、十分理解している児童もいるが、定着が図れていない児童も見られる。	・伝えたいことを相手に正確に伝える上で、主語と述語が適切な係り受けになっていることが重要であることに気付くようにさせたり、文章を読むときにも意識させるようにする。 ・漢字を正確に読み書きできるように、朝の学習やミニテスト、家庭学習において既習漢字の習熟を図る。

宇都宮市立平石北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

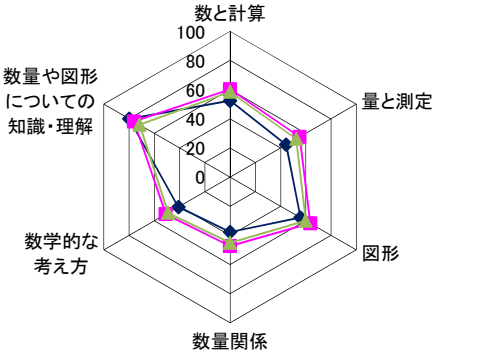
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	57.1	64.5	62.3
	量と測定	65.0	73.6	72.7
	図形	50.5	59.1	56.9
	数量関係	53.7	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	61.7	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	56.5	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	52.4	60.2	58.4
	量と測定	44.3	55.0	52.4
	図形	55.7	63.5	59.9
	数量関係	37.7	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	41.0	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	80.0	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

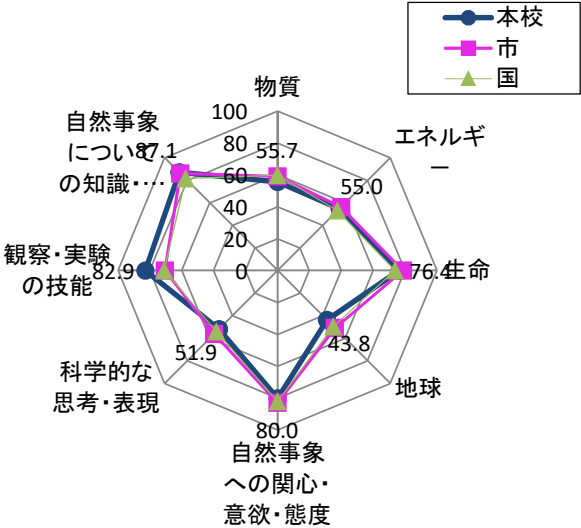
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●算数A、Bとも国や市の平均を下回っている。 ○1に当たる大きさを求める問題場面における数量関係を理解し、数直線上に表すことに関する問題については、国の平均を7.6ポイント上回っている。 ●1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解する問題について課題が見られた。	・数直線を完成することができるが、正しい式を選ぶことができず、数直線を式へ結びつけられていない児童が多い。数直線を用いて演算決定をする学習では、まずは口を用いるなどして、数量の関係を乗法の式に表してから除法で表すことを丁寧に指導していく。
量と測定	●算数A、Bとも国や市の平均を下回っている。 ○異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解する問題については、国の平均を3.6ポイント上回っている。 ●単位量当たりの大きさを求める除法の式と量の意味を理解する問題について課題が見られた。	・混み具合などを単位量当たりの大きさと比べる学習を行う際にはどちらの量を単位量にそろえるために除法するのか、見通しをもって式を立てられるようにしたい。そのために、式を立てる前に数量の関係を数直線で表して関係を捉えたり、言葉の式で表して式の意味を考えさせる活動を意図的に取り入れていく。
図形	●算数A、Bとも国や市の平均を下回っている。 ○合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだす問題については、国の平均を8.1ポイント上回っている。 ●示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現する問題について課題が見られた。	・図形の構成要素については、既習内容を確認し復習するための練習問題に取り組ませたり、自分の言葉で記述できるよう、説明する活動を増やしながら定着を図っていく。
数量関係	●算数A、Bとも国や市の平均を下回っている。 ○折れ線グラフから変化の特徴を読み取る問題については、国の平均を5.0ポイント上回っている。 ●棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断する問題について課題が見られた。	・各種グラフから割合や変化の特徴を読み取ることができるように復習をし、問題演習を繰り返す行うことで定着を図っていく。

宇都宮市立平石北小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	55.7	59.0	59.8
	エネルギー	55.0	56.4	53.1
	生命	76.4	78.6	73.6
	地球	43.8	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	80.0	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	51.9	56.1	54.1
	観察・実験の技能	82.9	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	87.1	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	●国や市の平均を下回っている。 ○ろ過の適切な操作方法を身に付けているなど、器具の使い方の問題については、国の平均を4.9ポイント上回っている。 ●実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述する問題について課題が見られた。	・結論結果を導き出すために、実験結果から言えることだけに言及した内容を根拠に考察できるようにしていく。また、他者の考えをもとに、自分の考えを振り返ったり、見直したりすることで自分の考えを記述できるように指導していく。
エネルギー	●国や市の平均をやや下回っている。 ○電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する問題については、国の平均を6.6ポイント上回っている。 ●太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的にあったものづくりに適用する問題について課題が見られた。	・モーターや光電池を使って実験装置を作る活動では、児童が作ったものが目的に合ったものであるか振り返り、必要に応じて修正できるように指導していく。
生命	●国や市の平均を下回っている。 ○骨と骨のつながり目について、科学的な言葉や概念を理解する問題については、国の平均を12.0ポイント上回っている。 ●安全に留意し、生命を愛護する態度をもって、野生のひなを観察できる方法を構想すること問題について課題が見られた。	・生命に関する教材では、本物を観察することが大切であるがその確保は難しい。視聴覚教材などを使って、指導していく。
地球	●国や市の平均を下回っている。 ○より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題については、国の平均を5.6ポイント上回っている。 ●土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する問題について課題が見られた。	・実験を行う際に、構想から結果の考察まで予想として見通しをもたせてから取り組むように指導していく。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定的割合が全国や県の平均に比べて非常に高かった。自分のよさを認め、伸ばしていこうとする態度がみられる。これからも、児童一人一人としっかり向き合い、学校生活が充実するように支えていきたい。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に対する肯定的割合が全国や県の平均に比べて高かった。今後も学力向上に向けた取り組みを学校全体で意識し、話し合い活動の充実を図っていきたい。

○「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」に対して「している」と答えた児童が多かったが、「していない」と答えた児童もいた。家庭での規則正しい生活習慣を今後も意識させるなど呼びかけを行っていききたい。

●「学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」や「学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」に対する回答の個人差が大きい。家庭学習の重要性を伝え、やり方や自主学習の進め方の指導や学校図書館などで本を借りる機会を増やし、個に応じた指導の充実を図りたい。

●「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」に対する肯定的割合は高いが、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」に対する肯定的割合はやや低い。関心をもっている児童が多いので、地域行事に参加したり、地域の人と関わっていく機会を提供し、情報を発信させていくことが大切である。

宇都宮市立平石北小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的に話し合い、考え深め合う授業づくり	授業改善に向けた3つの視点「めあて・振り返り・自分の考えを書く」を重視し、授業の中で適切な指示や発問を教師がコーディネートしていく。	5年生の時と比べて、正答率の向上が見られた。今後も「めあて・振り返り・自分の考えを書く」時間を十分確保することで、学習内容の定着を高めていきたい。
	話し合いなどの言語活動の充実を図り、学習形態を工夫することで、多様な意見に触れ、自分の考えを深めていく。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に肯定的な回答をした割合は、85.7%で国や市の平均を上回っている。ペアやグループ活動など学び合いを深める学習形態を工夫してきたことで、多様な意見に触れながら自分の考えを深めることができている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語と算数の教科に関する調査から知識を問うA問題に比べ、知識の活用力を問う問題に課題が見られた。	復習により定着を図る学習の充実	前学年までの内容や学期末・学年末の復習において、基礎・基本の問題や自分の言葉で説明する問題のような知識技能を活用する学習活動の充実させていく。